

ART VILLAGE

6月からKAVCがようやく再始動！

新型コロナウイルス感染拡大防止のため3月3日から臨時休館に。一部利用に制限を設けて、6月1日より3ヶ月ぶりに開館を再開しました。

とはいえまだ気が抜かれへんし、
体調には気をつけていこな～。
さて、今号はなんと特別号。

KAVCゆかりの作家による、紙上
ワークショップを届けるで！
KAVCのWEBで読める

画家・イラストレーターの田岡和也さんと、美術家の菊池和晃さんによる、
紙上ワークショップをご紹介します！詳しくは中画「KAVC WORKSHOP」にて。

演劇プログラムの劇評や、

多彩なゲストが執筆した「KAVC FLAG COMPANY 2019-2020」の劇評を特設サイトにて公開中。
「KAVC FLAG COMPANY」で検索！

『ART VILLAGE VOICE』と

84号から最新号まで公開中！ 大好評の漫画「KAVCスタッフと、ときどき保安のおっちゃん物語」もまとめて読めます◎

あわせて楽しんでや～。マスクとか
バッチリ対策して、また遊びにきてや！

ご来館の際には必ずマスクの着用をお願いします。手指の消毒や、こまめな換気などにもご協力ください。

ART VILLAGE VOICE — CONTENTS

KAVC WORKSHOP

田岡和也 (画家・イラストレーター)：みのまわりをアーカイブする「じぶん ZINE」をつくろう！

菊池和晃 (美術家)：ものと身体の「連動」をドローイングしてみよう！

STORY KAVCスタッフと、ときどき保安のおっちゃん物語 | STAFF's VOICE KAVCからのお知らせ

KAVC WORKSHOP

KAVCは、新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、2020年3月から5月末まで臨時休館しました。
今回は特別号!! ワークショップシリーズ「ひらめきのたね」、「はじまりのみかた」の番外編として、
KAVCとも関わりの深い田岡和也さん、菊池和晃さんとともに、家でも楽しめるワークショップをお届けします!

STEP 1

最近の出来事や今の気持ちを
紙に書き留める

ルールはないので、自由に考えてみましょう。
例えば、こんなことから考えはじめてみると、
面白いかもかもしれません。

- ・昨日は何時に寝て、今日は何時に起きた?
- ・山と海だったらどちらに行きたい?
- ・最後に土の上を歩いたのはいつだった?
- ・今日、汗かいた?
- ・無性に食べたいものは何?

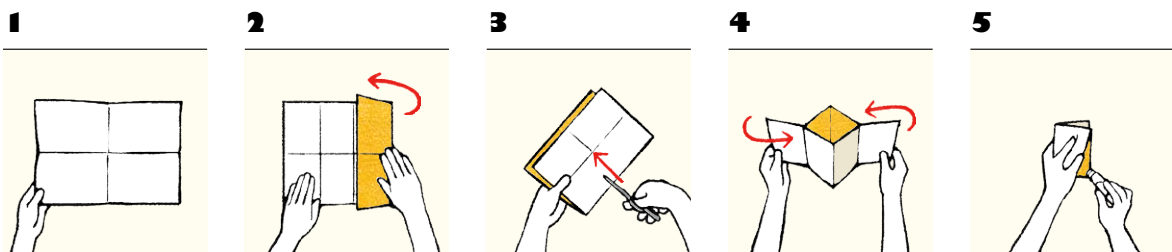
STEP 2

みのまわりにある
「もの」を集める

ZINEに貼れるものなら、なんでもOK。
素材にこだわらず、いろんなものを集めて、
机の上に並べてみましょう!

- ・机の奥にある捨てられないものは?
- ・お散歩中に見つけたものは?
- ・机の上に、何が見える?
- ・最近食べたお菓子は?

STEP 3 ZINEの土台をつくる



- 1 画用紙を4つ折りにし、十字に折り目をつける。
- 2 1を開いたら、両側を中心線に向かって折り、紙を八等分する。
- 3 2を開き半分に折る。山折り側から、折り目を中央に向かって半分だけ切る。
- 4 3を広げたら、横半分に折り、中心の切り込みを外側に山折りにする。
- 5 閉じて内側をのり付けしたら完成!

机の上に新聞紙を敷いておくと、快適に作業できますよ!

STEP 4

土台に集めたものを
貼り付けたり、
書きこんだりする

近くにある折紙やチラシも、何も考えずに
切ったり貼ったりすると、偶然の組み合わせ
から思ってもみなかった発見があるかも。
迷ってしまったら、先にZINEのタイトル
(テーマ)を決めてみるのもいいですね。

STEP 5

貼る(描く)場所がなくなったら、完成!

最後のページに制作した今日の日付や自分のサイン(名前)
を入れておくと◎ 友だちや家族と交換して、お互いの
ZINEをじっくり見てみたら、どんな発見があるかな?

このワークショップを考えてくれた
田岡和也さんに質問!

Q KAVCとのつながりを教えてください。

A 最初に声をかけてもらったのは2015年の新開地
夏祭り。そのときは、めんこをつくってバトルする
ワークショップを開催したのですが、丸1日バ
トルしていたり、負けて泣いて帰ったりと、かな
り気持ちの熱い子どもが多くて、印象に残るワー
クショップでしたね(笑)。最近では、2019年に
兵庫区の風景を描く《兵庫景》シリーズをKAVC
ギャラリーで展示しました。

Q 近年は作品としてZINEをつくり続けていますね。
なぜZINEなのでしょう?

A 《兵庫景》シリーズは折紙と水性ペンを使った作
品なのですが、制作中に出る折紙の切れ端もなん
だか面白く思えてきて。以来、端材を使って、
ZINEをつくるようになりました。ZINEは、自分
が「やりたい!」と思うことを自由に表現でき
るメディアなんです。例えば、僕は登山には
まわって、山道で見つけたゴミや美しい風景
などを『山と田岡』と題したZINEにまとめてい
ます。1回の登山につき1冊、すでに40冊以上手
元にある(笑)。完成品を初対面の人や知り合
いに見せて、自分の活動を伝えています。ZINE
はコミュニケーションの道具にもなるんです。

Q ワークショップに挑戦してくれる人にひと言!

A 自分で素材を選び、描くことで、小さくて美しい、
自立した作品になります。完成したら眺めてニヤ
ニヤしてみてもいい。飽きたら、捨てずに机の奥にそ
と仕舞っておきましょう。10年後に見えたとき、
面白いかも間違いなし!

田岡和也 (たおか・かずや)

1983年香川県琴平町生まれ。大阪芸術大学在学中の2003年に初
個展。2013年「マイホーム ユアホーム」(芦屋市立美術館)、
2015年「des Spektrum」(pland.デュセルドルフ)、同年「BTTFシュラッシュ
シュ」(KOBE STUDIO Y3)など多数に出展。展覧会、ワークショップ、壁画、
ライブペイントと、活躍の場を広げている。2020年には、9/12-11/23開催の
「六甲ミーツ・アート芸術散歩」に招待作家として参加予定。
<https://taokakazuya.jimdo.com/>

出来上がった「じぶん ZINE」を
シェアしよう!

その1 Twitter、Instagramでハッシュタグ「#KAVC_TAOKA_WS」
を付けて、出来上がった「じぶん ZINE」を投稿してみましょう!
田岡さんがコメントしてくれるかも?

その2 「じぶん ZINE」をKAVCの1F受付に「こんなのできたよ!」と見せに来てくだ
さい。先着20名様に田岡和也謹製「KAVC マンシール」など参加賞をプレゼント!
○プレゼント期限: 8月31日(月)まで ※ただしなくなり次第終了 ○プレゼント進呈の際に、持参した
ZINEを撮影いたします。KAVCのSNS等で紹介させていただく場合がございます。○1F受付
いた「じぶん ZINE」の営業時間中のみ引き換えが可能です。(13:30-18:00 ※映画上映期間中は10:15から営業)

ひらめきのたねは、地域事業の創作ワークショップシリーズ。各回さまざまな作家を
ゲストに招き、「つくることを身近に楽し!」をテーマにワークショップを展開します。

このワークショップを考えてくれた
菊池和晃さんに質問!

Q このワークショップを考えたいきっかけは?

A 私たちは、生活を豊かにすると同時に、私たちが
拘束する何かと常に運動して生きています。それ
は例えば、車のような道具から、インターネット
や社会のような仕組みまで実に多様です。運動な
しに生きていくことは困難で、言い換えれば私た
ちは拘束されることで存在しているのかもしれま
せん。今回は、身近な構造物から、身体との運動
の仕組みを探し、双方を結び「運動」の軌跡をド
ローイングするワークショップを考えました。

Q 身体をテーマに制作をしている菊池さん。
KAVCの若手芸術家支援企画「1floor 2017」
では、《アクション》を発表されていたね。

A そうですね。もともと「美術に特化した身体」を
目指して、自作のマシンに殴られながらアクション
ペインティングを行う《アクション》、スクワット
の動きをドローイングに変換する《Muscle:
series》などを制作してきました。しかし制作を
通して、マシンに身体が拘束されることで身体性
をより強く感じられることに関心が強くなって
いて。技術が進歩し、道具が身体化したとき、ア
ーティスト個人の能力に差異はなくなるはずで
す。今はマシンを使った、誰もが再現可能な表現につ
いて、思考しています。

Q ワークショップに挑戦してくれる人にひと言!

A 僕にとってアートは、失うとバランスを崩してしま
う「目には見えない第3の足」です。このワー
クショップで、みなさんにも「第3の足」を感じ
てもらえればと思います。

菊池和晃 (きくち・かずあき)

1993年京都府生まれ。2018年に京都市立芸術大学大学院を卒業。
身体と機械、個人と社会、アーティストと美術などそれぞれの関
係性や運動性をテーマに美術史から引用したイメージを生産するマシンを制
作する。4/4-7/26開催の「京芸 transmit program 2020」(京都市立芸術大学ガ
ラリー@kcua)、7/11-8/30開催の「京都芸術センター20周年記念事業 ニュー
ミュージアム #3」(京都芸術センター)に出展。
<https://www.kazuakikuchi7238.com/>

はじまりのみかた vol.7

「スター作家の作品を生産するマシンを考える」

開催日: 2020年7月24日(金・祝)

時間: 13:00-16:00

会場: 神戸アートビレッジセンター・4Fリハーサル室2

対象: 中学生以上

料金: 一般1,000円、かぶっクラブ会員 800円

定員: 8名

はじまりのみかたは、美術事業のワークショップ/講座シリーズ。文化活動の入口とな
るさまざまな事柄に着目し、ジャンルを横断した企画を構成しています。

ものと身体「運動」

はじまりのみかた

自作のマシンを用いて、身体を鍛えるようにドローイングの制作を
行っている菊池さん。身近な道具・構造物を使って、自らの動きを
見つめ直すワークショップを教えてくださいました。

制作時間: 30分

準備するもの:

画用紙、ペン(鉛筆やクレヨンなど、
線が引けるものならなんでもOK)、
ビニール袋(ラップでもOK)、ガムテープ

STEP 1

家のなかにある、何気なく使っている
道具や、建物の構造物を3つ探す

ドア・引出し・窓・ゴミ箱のふたなど、一定の
範囲で動く道具や構造物を探してみましょう。

STEP 2

構造物にペンを取り付ける

ガムテープなどを使って、ペンが動かないよ
うにしっかりと構造物にとりつけます。

STEP 3

ペンが動く範囲に
紙を取り付ける

紙は動かないように、テープで固定して
おく◎ 道具・構造物の可動範囲より
大きめの紙がおすすめです。裏写りしな
いように、紙の下にビニール袋やラップ
などを敷いておきましょう!

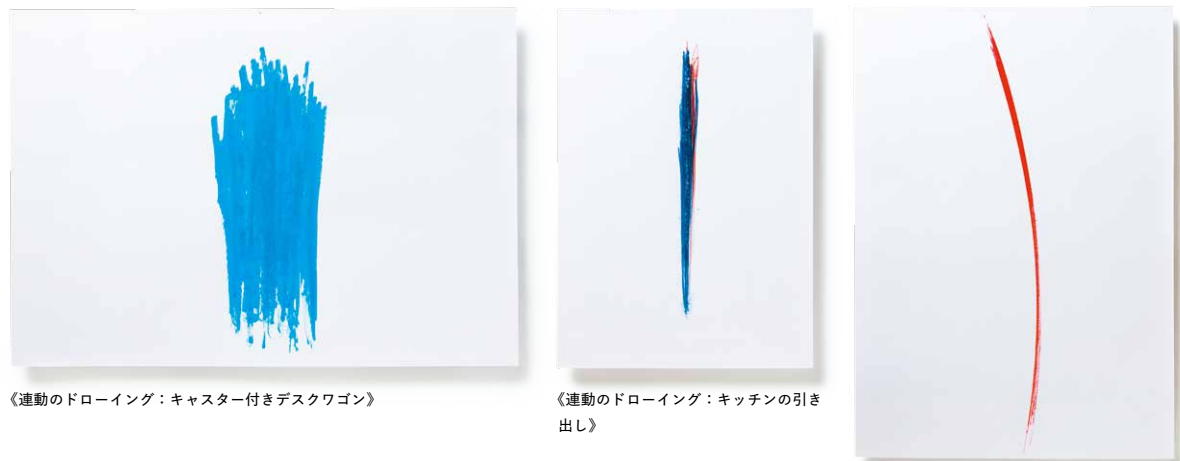
STEP 4

道具の可動部を動かし、
ドローイングする

インクがなくなるまで、
できる限り動かし続けてみましょう!

STEP 5

出来上がった3枚のドローイングを並べて展示する



《運動のドローイング: キャスター付きデスクワゴン》

《運動のドローイング: キッチン引き出し》

《運動のドローイング: リビングの扉》

使う道具や構造物、動かす速度によって異なる、動きの軌跡を観察してみましょう。
ペンの太さや色を変えて、出来上がる作品の印象を見比べてみるのもいいですね!

KAVCスタッフと、 ときどき保安のおっちゃん物語



ふたりのマンが出会ったら それはメッセージ.. 宇宙からのメッセージ..

KAVC スタッフと、

ときどき保安のおっちゃん物語とは……

本館の隠れた主人公・保安のおっちゃん3人衆のかたわらで、日々業務に励むKAVCスタッフ。彼らが見つける新開地とKAVCの日常から、さまざまなエピソードを紹介していきます。

作・画 すずきひろゆき 鈴木裕之さん

本誌を機会に新開地デビューを果たした大阪出身・在住のイラストレーター。雑誌やCDジャケット、広告ほか、2020年からオンライン似顔絵屋「LUX」(lux-lux.jp)などで活動中！

KAVCのいま

今年も年次決算の時期がやってきました。文化施設を運営する私たち文化振興財団にも一般企業と同じように決算があり、さまざまな数字から1年間を振り返ります。KAVCは、神戸市からの指定管理料、演劇・ダンス、美術、映像、地域交流といった文化事業のなかで発生するワークショップの参加費、公演や映画の入場料、付随する書籍パンフレット類の販売のほか、公演や練習、作品制作や展示などで一般の方々が施設を利用する際に発生する施設利用料で成り立っています。決算期には1年間の活動を数値化しKAVCの施設設置者である神戸市へ報告します。日々の事業活動や施設の利用を、数字という統一した基準に置き換えるので、集められた数字は、客観的に意味のあるものになるわけです。この決算報告は文化施設特有のものではなく、例えば一般企業が株主に事業を報告する義務があるのと同じ責任として行われます。ですから、経理業務を遂行していく上では、公立の施設であるKAVCを適切に運営していくため、「カネの面」を中心に正確な処理を心掛けています。(砕けた文章にしたかったのですが、正確さが問われる業務内容なので難しいですね……！)

執筆者

山本聡之 [庶務・経理担当]

音楽が趣味のひとつです。最近はシンフォニック・メタルバンド「Unlucky Morpheus」をよく観たり聴いたりしています。

おことわり

新型コロナウイルスの
感染拡大防止に伴う対応について

感染拡大防止の
取り組みについての
詳細はこちらから

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月1日より一部利用を制限したうえで開館を再開しております。ご来館・ご利用の際には、館全体の利用指針を厳守していただくとともに、感染拡大防止の取り組みにご協力をお願いしております。



STAFF's VOICE

KAVCスタッフが日々活動するなかで、興味を持ったものごとをざくばらんに紹介していきます。オスメイメントの詳しい情報などはWebサイトにて！

VOICE 01

KAVCシネマ10月の特集上映では、日本の演劇界・映画界を長きに渡り牽引して来た女優、杉村春子特集します。杉村と言えば、おばあさんがブロンドのカツラにスリッパ1枚で舞台上に立っているという、キョーレツなイメージでした。『流れる』(1956年)を観るまでは。脇に回りながらも主役を食ってしまう、現実味溢れる演技力に引き込まれ、以来私は先生(勝手に呼んでいる)の作品を好んで観ました。どの役を演じて「杉村春子」なのかもしれませんが、それが許され、期待される女優だったと思います。杉村の生の舞台を観られなかったことが、本当に悔やまれてなりません。

岡本西子

[映像担当]



前田詩穂 [演劇・ダンス担当]



VOICE 02

今年度より、演劇・ダンス事業担当になりました。KAVC“だからこそ”の舞台芸術を、多くの方々に楽しんでいただけるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。私がはじめてKAVCに来たのは、高校生の頃。高校生向けの演劇ワークショップ「Go!Go! High School Project」に参加したことがきっかけです。そこで演劇の面白さを知り、今に続いています。あれから約10年。今もKAVCに毎日通ってるよ、と高校生の頃の自分に言ってみたいです。絶対びっくりするやろなあ。

神戸アートビレッジセンター

www.kavc.or.jp

指定管理者：公益財団法人 神戸市民文化振興財団

〒652-0811 神戸市兵庫区新開地5-3-14

TEL＝078-512-5500 FAX＝078-512-5356

開館時間＝10:00-22:00 休館日＝毎週火曜日

(火曜が祝日の場合は翌日)・年末年始



アクセス
・神戸高速「新開地駅」8番出口より徒歩約5分
・JR「神戸駅」ビエラ神戸口より徒歩約10分
・神戸市営地下鉄「湊川公園駅」東改札口より徒歩約15分